

安全な場所作り 取り組みは 事前復興まちづくり計画で



山本 牧夫 議員

立った所から高台へ移転している。

高台の造成計画は「黒潮町事前復興まちづくり計画」を6年度に仕上げ、財政や補助金を検討し、優先順位をつけて出来る所から前倒しして実施したい。

問 黒潮町地域防災計画に基づき、津波の危険を事前に回避するため、公施設や住居等について、計画的に安全な場所へ移転する対策に、どのように取り組んでいるか。

土佐西南大規模公園東地区の高台検討地は、県に対して解除の理由やその後の計画が必要で、事業着手が難しいと思っている。

令和3年4月に佐賀地区区長会から要望のあった、津波被災後に一定期間生活が出来る高台の造成を急ぐべきではないか。

答 松本町長

消防屯所、集会所等は、地区合意と用地の目処が

見当たっていない。佐賀地域の現状は理解でき、全体的なあるべき姿を描いたうえで、事業を進めて行きたい。



土佐西南大規模公園東地区の高台地

議員定数割れ

なり手不足への対策は 助成制度導入に取り組む

問 まちづくりや政治に関心を持って、立候補してもらおう対策が必要。

議員のなり手不足については、地域の人口減や高齢化、過疎化、個人の職業と議員活動のバランス、報酬等の問題があると考えられる。

また、選挙運動の公費負担については、県下23町村の内20町村が3項目を助成しているが、本町はポスター1項目のみの助成となっている。未実施は、大月町、三原村、黒潮町の3町村なのであと1つでもプラス出来ないかを問う。

答 土居総務課長

採用していない選挙運動用自動車の使用や選挙運動用ビラ作成について、公営制度に追加採用し、

候補者に援助することは候補者増加に一定の効果があるものと考えており、制度導入に向けて積極的に取り組んでいく。



黒潮町6月定例議会の一コマ